

令和5年度学校自己評価システムシート (学校法人昌平学園 昌平高等学校)

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」 |
|--------|---|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1.才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2.人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3.健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4.国際教育：国際的視野に立って考え、行動する力を養成する。 |
|------|--|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|-------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 3名 |
| | 卒業生 | 1名 |
| | 学識経験者 | 4名 |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | 学 校 関 係 者 評 価 | | |
|-------------|--|---|---|---|---|--|-----|---|
| 年 度 目 標 | | | | 年 度 評 価 (3月) | | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 中間評価 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | ①進路目標達成に向けて生徒が主体的に学ぶ環境を作る。ICTを活用し授業展開における学びの幅も広げていく。 ②進路目標を含めた自己実現に向けた計画的な取組みができるように体制を整える。 ③各種資格の取得(英検・GTEC・TOEICなど)を推進する。 ④自習室の充実化など授業だけではなく、自学学習を習慣化できる環境作りを行うとともに、生徒全体に積極的に働きかけを行う。 | ①教員が個々で授業力向上に努めているか。進路指導部を中心に模試等の分析を行い、担任から状況をフィードバックする体制を整えることができるか。ICTの活用で授業実践の幅が広がっているか。 ②進路目標の達成に向け、学校全体で情報を共有し、生徒にアドバイスする体制が整っているか。 ③パワー・イングリッシュ・プロジェクトを掲げる中で資格取得の推進、計画的な取得ができるよう働きかけができているか。その他の資格試験についても積極的な取組みを促すことができているか。 ④生徒が掲げる進路目標の達成に向けて学習計画および学習時間の管理等、アドバイスを行うことができているか。 | ①授業準備を時間確保のために分掌業務の整理を行う。進路指導部を中心に模試分析を積極的にを行いフィードバックできる体制を整える。担任と情報を共有し進路指導にあたる。各大学の入試データ分析研修会等に積極的に参加し情報を得る。ICTの活用に向けて実践例を周知する。 ②大学の進路イベントや相談等を積極的に実施し、生徒が有益な大学情報を取得できる機会を作る。担任からも入試情報について、生徒に直接伝達し生徒の大学進学に向けたモチベーションの向上に努める。 ③各種検定の積極的な受験を促すよう周知を行う。また、英検等をはじめ校内でも受験ができる体制を整える。 ④学習室の活用状況を確し、自学自習に積極的に取り組める環境を整える。チューターをはじめ質問対応ができる体制をよりよくする。また、スタディサプリを活用できる環境も作る。 | ①分掌業務における業務整理を行い、教材研究の時間を確保している。ただし、一部教員に業務が偏る面もあるため整理が必要となる。ICTを活用し工夫した授業を展開する教員は増えてきた。進路指導部が中心となり、模擬試験の分析結果から個々にフィードバックを行い、課題を整理し意欲的に取り組む環境を作っている。 ②校内の進路イベントを積極的にを行い、大学情報を得る機会を作っている。 ③各種検定の取得状況を担任が把握し、大学受験等でも活用できるようアドバイスしている。 ④リクルート社「スタディサプリ」についても補足的に活用するよう周知している。 | ①10月に実施の授業評価アンケート結果を検証し、各教員が改善に努めているかを適宜確認する。ICT活用については状況を把握し、教員自ら現状の課題を確認、改善に努めているかを検証する。模擬試験の分析データについて生徒個々にフィードバックし、進路目標達成に向けた対策を講じることができたか。 ②各種進路行事・担任との面談等を通して、目標とする大学受験に向けた主体的な取り組みができる環境作りができているか。 ③資格取得の積極的な取り組みを促すために、有益な情報伝達が明確にできたか。 ④学習室の活用状況等の周知をはじめ、計画的に学習習慣を確立し、自主的な取組みができるような環境づくり、働きかけはできているか。 | ①各教員が授業評価アンケート結果で出た課題を把握し、授業に活かすよう取り組んだ。今年度は一部ICT研修を実践した。例年通り模擬試験のフィードバックは担任が中心となり行い進路目標の整理に効果的なものとなった。ICTを活用した授業実践は活用する教員としない教員で個人差が大きくなる。 ②今年度は昨年度と比較し、国公立大学・G-MARCHの合格者は伸びた。しかし、早慶上理は大幅に減る形となった。 ③令和5年度の英検受験の取り組みにより、高校内で昨年度より高い86%の生徒が英検(3級以上)を取得している。とりわけ高校卒業程度といわれる2級には全校で43.2%、また、準1級の取得者も年々増加傾向にある。大学入試にも英検利用が進む中、今後一層多くの生徒が2級、準1級などの上位級を取得できるよう指導していく。 ④学習室の活用については、より積極的に活用する状況が見られ、調査期間においては350名を超える日もあった。生徒の学習意欲の向上が見られる。部活動の終了後にも活用する生徒も増え文武両道を実践している。 | B | ①研究授業をはじめ教員が授業実践における課題を整理し、情報共有を行っていくことで学校全体の活性化につなげたい。生徒が掲げる進路目標達成に向けて、また、学校としての合格実績数を伸ばしていくための計画を立案していく必要がある。ICT活用については、次年度は研修の実施とともに実践例を共有するなど、全教員が積極的に活用できる体制を整えていきたい。 ②次年度も学校として進路イベントを実施し、生徒にさらに有益な情報を共有できる環境を整える。 ③パワー・イングリッシュ・プロジェクトのさらなる強化を求め、大学進学に向けて取得状況の分析を行う。大学受験での活用方法など生徒に積極的に伝達していく。 ④学習室の活用で生徒の学習意識が非常に高まっている。ただし、活用状況に課題もあるため、環境作りにおける整理を行う。 |
| 2 | ①日常生活のマナー指導、身だしなみ、学習を継続して行う上での基本的な生活習慣の確立を目指す。 ②生徒が活躍できる機会、主体的に参加する生徒会活動や課外活動の充実化を図る。 ③生徒のコミュニケーションスキルが向上できる環境づくりを行う。 | ①頭髪・服装をはじめとする学校のルール遵守、生徒が公共交通機関や自転車での通学時において適切なマナーを理解、実践できているか。 ②各行事で生徒会活動や部活動をはじめとする課外活動の充実化が図れているか。 ③教員が様々な活動を通して生徒と積極的にコミュニケーションをとる機会を作ることができているか。 | ①校内外ともに生活指導部を中心に登下校時の通学路指導等で現状把握を行っている。ホームルームや学年集会を通して指導を行いより良い環境を作る。 ②文化部の部活動発表会をはじめ、ボランティア活動の企画等積極的な参加を呼び掛ける。 ③定期的な面談を行い、生徒に寄り添った形で指導し、意欲的な活動を促す。 | ①登下校時の通学マナー等について外部から指摘を受けることもあった。担任や部活動顧問など指導を行っている。 ②運動部だけでなく、文化部も校内発表会など充実した活動ができている。 ③担任を中心に生徒と適宜コミュニケーションを取る中で、生徒の実態把握に努めた。 | ①登下校時や学内における校則遵守など状況把握に努める。また、生活指導部を中心に校内外の状況把握を行う。 ②工夫を凝らし、生徒が充実感を持って活動ができているか。 ③現状把握に努める中で、学習や課外活動等、積極的な取組みに繋げることができているか。 | ①特に登下校時の通学マナーについて、外部の方からホームでのマナー等について指摘を受ける状況があった。担任のみならず学年集会などで周知し、改善に努めていく。 ②生徒会を中心に各部の発表機会が継続的に作られていることは良かった。 ③生徒へのアプローチについて各所でメンタルケアを含め、生徒が前向きに取り組める働きかけをしている。 | B | ①学内におけるルールの確認を適宜行い、教員が同じベクトルで指導できるように体制を整えていく。 ②生徒会や部活動など行事の企画を積極的にを行い、生徒の活躍の場をさらに増やしていきたい。また、地域交流も積極的に行っていく。 ③面談等を通して状況把握を積極的に行う環境は作っていた。今後も継続して行っていきたい。 |
| 3 | ①文武両道が実践できる環境を整える。 ②学年団(担任等)を中心に生徒が様々な相談ができる体制を整える。 | ①文武両道を実践するために部活動顧問も生徒個々の状況 ②面談等を通して、生徒が抱える悩みの解決や精神的な支援ができているか。 | ①部活動において質にこだわり、指導者が工夫を講じた中でより良い指導を行っていく必要がある。学習面においては隙間時間の活用など、効率的、効果的に学習を行っていくよう指導を行っている。 ②SNS講習会を実施するなど生徒が抱える不安を未然に防ぐ取り組みを行っている。 | ①日々の活動において成長を求め高いモチベーションでトレーニングに励んでいる。文武両道を実践するために学習時間を確保できる体制を作っていた。 ②担任が面談を通して、正確状況把握に努めている。 | ①部活・学習ともに前向きに取り組む姿勢が見られるか。隙間時間の活用など自主学習に意欲的に取り組むことができる環境を整えられているか。 ②生徒との面談等を通して実情の把握ができているか。特にSNSにおける問題点等の実態を理解・把握できているか。 | ①文武両道の実践する上で、各部活動においてより主体的に行動できるようなペースを確立している。その中で多くの部活動が関東・全国大会出場など成果を上げている。また、特進アスリートクラスからも国公立大学、難関私大の合格者を輩出するなど文武両道を体現できる生徒が増えている。 ②生徒の現状把握は担任を中心に学年団も協力する体制を整えている。SNS使用においてはまだ課題は残っている状況である。今後も適宜、課題解決に努めていく必要がある。 | B | ①1年次より学習が習慣化されるよう各部活動においても生徒に指導を行っている。模範となる上級生の取組みを参考に下級生も意識レベルが高まってきている。今後も継続した取組みをしていきたい。 ②SNSの使用、向き合い方について、状況把握に努めるとともに、他校でどのように対応しているかも参考にしていける必要がある。 |
| 4 | ①英語力強化につなげる ②学校行事(希望生徒対象)として行う語学研修(海外含む)の充実化を図る。 ③帰国子女の受け入れを積極的にを行う。 | ①実践の場で活用できる英語力・会話力について授業を通して身につけることができるか。 ②海外研修を再開し、生徒が学びを得る環境作りはできているか。 ③帰国子女の受け入れにあたり、募集活動を積極的にしているか。また、一般生徒が帰国子女と積極的にコミュニケーションを取る機会を作ることができているか。 | ①全教職員が英語力強化に向けて英検の全員受験をはじめ積極的な取組みを促す環境を整え、モチベーション向上に努める。 ②今年度より海外語学研修を再開し、工夫を講じた中で生徒の活動の幅を広げる。 ③帰国子女生徒と交流する中で、オーストラリア語学研修、ハーバードサマースクールを通して、英語力向上を目指す高い意識を持つ生徒が多い。 | ①英検2次対策は英語科教員を中心に資格取得に向けて積極的な取組みを行っている。 ②カナダ修学旅行、希望者対象のオーストラリア語学研修、ハーバードサマースクールを通して、英語力向上を目指す高い意識を持つ生徒が多い。 ③帰国子女との交流が英語を学ぶモチベーションにつながっている。 | ①大学受験に英検を活用するなど生徒にとって有益な情報共有はできているか。そのために取得状況の確認、取得に向けた働きかけはできているか。 ②海外語学研修の取り組み、効果などを教員全体で情報共有し、生徒に良さを伝達するなど英語を学ぶモチベーション向上につながっているか。 ③帰国子女と交流することで英語を学ぶモチベーション向上につながっているか。海外在住の日本人への学校の認知度を高める具体的な活動ができたか。 | ①担任の指導状況からも英検取得に前向きな姿勢がみられるなど、英語力向上に努める生徒が増えている。ただし、クラスによっては受験数の面で課題がある。 ②修学旅行や海外語学研修を行い、英語力向上への意識はさらに高まっていると言える。希望者対象の研修行事も数多くの参加があった。 ③帰国子女との交流、情報交換により英語を学習していく上でのモチベーション向上につながっていると言える。 | B | ①英検においても大学受験をはじめ進路活動にも活用できる情報等を周知していくことで前向きな姿勢がみられる。今後はクラスによる意識レベルの偏りがないよう周知方法も検討していく。 ②修学旅行や海外語学研修の実施、グローバルサマースクールをはじめとするプログラムの提案など英語力向上に向けた意識レベルは高まってきていると言える。さらにプログラムの充実化を図っていくようにしたい。 ③帰国子女と交流することで英語への興味・関心、学習を行っていく上でのモチベーション向上につながっている。今後も現状においてできる限り積極的に募集を行っていく環境を確立していく。 |

| | |
|-------------------|--|
| 実施日 | 令和6年3月26日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | ①今年度は東京大学1名、東京工業大学3名、一橋大1名が現役合格をするなど、国公立大学には78名、早慶上理ICUは56名、G-MARCHについては199名の合格者を輩出した。また、今年度も医学部医学科に7名が合格した。更なる進学実績の向上を目指して、学習環境の整備、生徒のモチベーション向上における具体的な取組みを行ってほしい。 ②大学入試改革における進路状況の分析等、生徒のモチベーション向上に努めてほしい。 ③各種資格の取得に向けて、大学進学情報とのリンク、有益な情報の伝達を行うなど積極的な働きかけをお願いしたい。 ④学習室を活用する人数が増え、自学自習に励むことができることは非常に良いことであり、さらに良い環境を作ってもらいたい。 評価：B |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | ①日頃の指導において、継続的な指導をお願いしたい。生徒が自覚ある行動ができるよう、また前向きな取り組みができるような環境を整えてほしい。 ②各種行事の工夫をはじめ、生徒の活躍が目に見える状況を作ってもらいたい。 ③生徒一人一人の成長のために生徒個々に応じた様々なアドバイスをしていただきたい。 評価：B |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | ①特に自習室の活用について、部活動生徒を含め数多くみられることから、意識レベルが高まっていると言える。文武両道を体現する生徒が数多くいることは下級生への刺激も含め非常に良い状況である。大学実績など今後目に見える結果を出していくことも大切になってくる。現状に満足することなく、より良い環境を作ってもらえるよう頑張ってもらいたい。 ②SNSの活用状況を把握するとともに、他校状況を含め現在の課題を整理してもらいたい。講習会など生徒に情報共有する場を設け生徒の成長につなげてほしい。 評価：B |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | ①パワー・イングリッシュ・プロジェクトを学校として活用できる情報等を周知していくことで前向きな姿勢がみられる。今後はクラスによる意識レベルの偏りがないよう周知方法も検討していく。 ②修学旅行や海外語学研修の実施、グローバルサマースクールをはじめとするプログラムの提案など英語力向上に向けた意識レベルは高まってきていると言える。さらにプログラムの充実化を図っていくようにしたい。 ③帰国子女と交流することで英語への興味・関心、学習を行っていく上でのモチベーション向上につながっている。今後も現状においてできる限り積極的に募集を行っていく環境を確立していく。 評価：B |

令和5年度学校自己評価システムシート (学校法人昌平学園 昌平中学校)

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」 |
|--------|---|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1. 才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2. 人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3. 健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4. 国際教育：国際的視野に立つて考え、行動する力を養成する。 |
|------|--|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) |
| | B | 概ね達成(6割以上) |
| | C | 変化の兆し(4割以上) |
| | D | 不十分(4割未満) |

※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|-------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 3名 |
| | 卒業生 | 1名 |
| | 学識経験者 | 4名 |

| 学 校 自 己 評 価 | | 年 度 評 価 (3月) | | | | | | |
|-------------|---|---|--|---|---|--|---|--|
| 年 度 目 標 | | 年 度 評 価 (3月) | | | | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 中間評価 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | ①IB授業における学びに加えて主要5教科においては基礎知識の習得に向け指導を行っている。 ②校外学習や体験学習(プログラム)を通して自ら考えることの基盤作りを行う。その他、キャリア教育を実施し将来について考える機会を作る。 ③各種資格取得を目指す。 ④自学自習の定着を図る。 Googleclassroomの活用 ※非常勤講師-教員全体情報共有 | ①アクティブラーニング手法を用いた授業展開で主体性を促すよう努める。あわせて、基礎知識の習得についても授業内で工夫し実践していく。学力推移調査の結果より目標設定を行う。 ②体験型プログラム(校外学習・体験学習)で主体的な学びが得られる環境を作っていく。調べ学習を通して生徒が主体的に学び発信する場を作る。また、発表の場はプレゼンテーション能力の向上にもつなげる。また、中学3年生を対象にキャリア教育特別授業を実施、多種多様な業界の方から話を聞き、進路に対する理解を深める。 ③PEPの一環として行っている英検取得に向けた取組みをはじめ、各種資格取得については積極的な呼びかけを行う。また、検定対策も行える環境を整備する。 ④担任を中心に日々の学習計画や現状における時間の活用方法などアドバイスを行う。 | ①生徒の学びに対する意欲を高められるようICTの活用など、知識習得に向けて幅広い授業展開を実践する。教員は、情報交換を行い、授業の質を向上していく。特に主要5教科においては基礎基本の習得、定着に向けた取組みを実践する。 ②校外学習や体験学習のプログラム選定など主体的に学ぶことができる環境を作っていく。 ③英語検定等の全員受験をはじめ、各種検定への積極的な取組みを担任、学年団等から促す。各種検定に向けた対策については各教科および担当教員が中心となり行っていく。 ④フォーサイト(スケジュール帳)やGoogleclassroomを活用し、自主学習のモチベーション向上に努めている。一部の生徒は学習習慣がまだ確立できず不安を抱える生徒もいる。フォロー体制を構築していく必要がある。 自己管理スキルの向上 | ①IB授業の展開において教員がICTを積極的に活用するなど工夫を講じていることから生徒の学習意欲も向上している。また、主要5教科の知識習得についても工夫を講じている。 ②生徒は様々な体験を通して、様々な気づきがあり大変有意義な活動となっている。 ③英検取得に向けて生徒が前向きに取り組む体制を作っている。 ④フォーサイト(スケジュール帳)を活用し学習習慣の確立状況など現状把握を行っている。 GoogleclassroomやSHシステム(自動問題作成システム)を活用し、自主学習のモチベーション向上に努めている。一部の生徒は学習習慣がまだ確立できず不安を抱える生徒もいる。フォロー体制を構築していく必要がある。 | ①授業評価アンケートの結果をもとに課題に気づき、改善に向けた取組みを行うことができていく。 ②生徒の主体的な学びの場を提供するために工夫を講じている。 ③各種検定に向けて、積極的な取組みを促す環境を作ることができているか。また、取得に向けたフォロー体制の構築、モチベーション向上につなげることができたか。 ④フォーサイト(スケジュール帳)やGoogleclassroom等を活用し、生徒の学習習慣の構築のための働きかけはできているか。そして、生徒の主体的な取組みを促すことができたか。 | ①ICTを活用し、生徒の興味関心を引く授業展開が増えている。あわせて基礎知識の習得に向けた授業も行き、学力向上に努めている。学力推移調査の結果から課題を見出し、学力状況に応じたフォロー体制を構築している。教員も教材研究を通して指導面における引き出しを増やしている。 ②様々な体験学習や体験型プログラムは生徒の気づきを大切にすることで充実した学びの機会となったと言える。コミュニティープロジェクト発表会においても生徒が工夫を講じ、質は向上している。 ③中学校においては、全校で99.7%の生徒が英検(5級以上)を取得した。3年生は80.4%の生徒が準2級以上を所得しており、例年の中学卒業時に準2級所持、という学校目標を達成している生徒が多くなった。2年生は目標に届いていない生徒が3割に82.2%が合格している。1年生は1名を除き全員が4、5級を取得している。年度を通して中3対象に準2級講習、英検各回前に各級の講習を行っていることが結果につながっている。 ④学習意欲が高い生徒が多いが、一部の生徒は学習習慣が確立できていない状況も見受けられる。担任を中心にもフォローできる体制を整えていくことが必要と言える。 | B | ①現状維持で満足することはなく、授業の工夫を講じるように努めていく。主体的に学ぶ意欲が持てるような授業展開を整えていきたい。生徒個々に学力推移調査の結果や定期考査をもとに学習方法等のアドバイスができる体制を作り上げる。 ②次年度も新たなプログラムの構築など生徒のより良い学びの場を提供していきたい。 ③努力が結果に結びついている状況になっている。今後も資格取得に向けたモチベーション向上につながる機会と非常に良い。さらに工夫を講じたプログラムを構築してもらいたい。 ④生徒がより良い学習環境を作っていくために具体的な計画策定を担任や学年団が中心となり行っていく。教員間も情報共有を行い、生徒に有益なアドバイスができるよう努める。 |
| 2 | ①校内外を問わず、日常におけるマナー指導を行う。あわせて基本的な生活習慣を確立するよう促す。 ②生徒会役員を中心として生徒が主体的に参加できるボランティア行事等を作る。 ③コミュニケーションスキル向上を目指す取り組みを活性化させる。 | ①校則の遵守、挨拶の励行などマナー指導について全教職員で指導にあたっている。また、外部においては自転車の乗り方など交通マナーを守り交通事故防止対策を徹底できているか。 ②生徒会が中心となり、校内外でのボランティア活動の企画に生徒が積極的に参加し、自らの活動の幅を広げることにはできているか。 ③各行事等をはじめ、生徒間でコミュニケーションを取る機会を増やし、自分の意思を明確に伝えることができたか。 | ①生活指導部を中心に校内外の巡回指導を行う。特に登下校時の状況把握を行い、生徒指導体制を構築する。 ②ボランティア活動やイベントについては地域ともリンクした形で行うことも視野に入れ、活動の幅を広げられるようにする。 ③授業内においてもプレゼンなど発表の場を設けるなど、生徒が主体的に活動する場を増やす。 | ①通学路や公共交通機関の利用におけるマナーについて、指摘を受ける状況があった。 ②活動はあまりできない状況だった。高校生と一緒に活動するなど工夫をしていく必要がある。 ③行事や授業等で工夫を講じ、コミュニケーション能力を向上させる機会を作ることにはできているか。 | ①生徒が根本的な面を理解できる状況を作ることができたか。指導において自覚を促すことができたか。 ②生徒が主体的に活動を行う環境はできているか。 ③行事や授業等で工夫を講じ、コミュニケーション能力を向上させる機会を作ることにはできているか。 | ①通学マナーでの外部の方からの指摘および校内における生活指導等もあつたことからまだ課題が多くあると言える。担任指導のみならず、学年集会等を活用し全体に指導・呼びかけを行う必要がある。 ②生徒会主体の活動は数多くできなかつたが、高校生と一緒に企画を検討するなど次年度に繋がる状況となった。 ③まだ一部には限られるが、各教員の工夫により、授業等でも良い方向で指導ができている状況になっている。 | B | ①現状、指摘をせざるを得ない状況もあることから、マナー指導については課題が残る。巡回指導を含め、対応を検討していく必要がある。 ②地域との交流、各種ボランティア活動の提示など生徒が前向きに取り組むことができる企画を立案する体制を作る。 ③新たな企画の創出など生徒一人一人にアプローチしていく体制を作る。 |
| 3 | ①体育・スポーツ活動を推進する。 ②教育相談を充実させる。 | ①各運動部での活動に際して、明確な目標を掲げ、達成に向けた積極的な取組みが見られたか。 ②生徒の状況を把握しサポート支援、指導をしていく体制が構築できているか。 スクールカウンセラー便り | ①各部において大会に向けて日々のトレーニングを大切にしていける。生徒のやる気を引き出す工夫した環境を作り出す。 ②生徒の状況把握に努めるために面談等を積極的に行う。その中で担任を中心にフォローしていく体制を作る。 | ①日数や時間は限られている状況の中で、トレーニングメニューの工夫等で設定した目標達成に向け努力する姿勢が見られる。 ②状況に応じて個別で面談を行うなど状況把握に努めている。 | ①生徒が部活動をはじめとする課外活動で目標を掲げ、達成に向けた積極的な取組みはできているか。 ②生徒の状況把握ができているか。また、不安を抱える生徒へのフォロー体制を整えることはできているか。そして、教職員間で情報共有し指導体制を確立することができたか。 | B | ①目標を達成するために計画性と日々の意識レベルの向上が必要であることを感じた生徒も数多くいる。活動を通じて競技における技術向上だけでなく、人間的成長を求め、アプローチするように努める。充実した活動を継続していくことでさらに大きな成長を遂げることができよう。 ②個別面談等を通して生徒の精神面にアプローチし、現状把握に努めていく。 | |
| 4 | ①実践的な英語力を身につける。 ②「SDGs」世界を共通テーマにグローバルな視点から課題をみつけ探求していく。 ③実践的な学びの機会を作る。研修等を含めた学びの場の提供を行う。 ④帰国子女生徒の積極的な受け入れにより活性化を図る。 ⑤IB(国際バカロレア)による学習効果の向上を目指す。 | ①授業で学んだ英語の知識を実践の場で効果的に使うことができるか。また、自分の考えを自ら発信することができるか。 ②世界を意識する・知ることで様々な事象を多面的に捉えることはできているか。 ③生徒が授業で学ぶ英語の知識を語学研修等で実践できているか。生徒個々にスキルアップにつなげる機会を提供することができるか。 ④帰国子女生徒が他生徒に良い刺激や影響を与えることができるか。 ⑤MYP(中等教育プログラム)における学習効果がグローバル人材の育成につなげることができるか。 | ①英語の授業において基礎知識の習得はもちろん、プレゼンテーションを行う機会を作るなど、実践的な場でも活用できるようにする。 ②調べ学習として、世界で起きている様々な事象を多面的に捉えることの重要性を知る。 ③授業内で学ぶ知識を修学旅行やブリティッシュヒルズ語学研修等で実践する機会を作り学習の場とする。 ④海外在住経験や語学力の高い帰国子女と日々の学校生活を共にすることで英語力向上の意識に良い刺激を与えていく。 ⑤調べ学習やディスカッションを行う機会を作るなどアクティブラーニング手法を用いて主体的に学ぶ環境を整える。そして、授業で実践できる場も作っていく。 | ①英語Gでは基礎知識習得を中心に行っている。IB英語はプレゼンテーションを行う機会を積極的に作る実践的な英語力を身につける機会を作っている。 ②テーマを掲げ、各グループでディスカッションを行った。生徒は主体的に取り組む、調べ学習を通して様々な問題に対して考える機会となった。 ③ブリティッシュヒルズ語学研修やハーバー Downs マスクールを企画し英語を実践する場を提供した。 ④帰国子女と学校生活を共にすることで刺激を受ける生徒は多い。今後も積極的に募集を行ってきたい。 ⑤学校全体でIBにおける情報共有を行い理解が深まっている。 | ①基礎知識の習得について指導体制が整っている。IB授業が実践的な英語力向上につながっている。生徒の理解力に応じた進度設定および授業展開はできているか。 ②探求型プログラムおよび授業展開を通して、生徒が主体的に学習に取り組む環境は作られているか。 ③行事や希望者対象研修等で生徒の活動、学び、実践的な英語力向上の場を提供できているか。 ④帰国子女との交流を通して、英語学習におけるモチベーション向上につなげることができているか。生徒募集において、海外在住者への認知度を高めることができたか。 ⑤授業展開に当たり教員間で情報共有を行い理解が深まっている。 | ①基礎知識の習得については、さらに工夫を講じていく必要があるとも言える。IB授業においては実践的な英語力を身につけるために主体的な学びができる環境は整った。 ②探求学習や調べ学習を通して、個々が意欲的に学ぶ環境が整えられている。生徒が自ら考え、課題を発見する力、常に高いモチベーションを取り組む姿勢が整っている。 ③各種行事において実践の場で活用できるかを確認することで、英語力を伸ばすことにモチベーションが上っている。 ④帰国子女との交流で英語力向上に高い意識を持つ生徒が増えている。海外での募集活動においても認知度が高まり希望者も増えている。 ⑤IB授業における授業展開や手法など様々なアイデアを教員間で情報共有した。今後も継続していく中で質の高い授業を展開したい。 | B | ①基礎知識の習得状況を確認できる学力推移調査等の結果より個々および学校としての課題を整理し、指導体制を整えていく。IB授業においては今後も継続して探求心・思考力、プレゼンテーション能力向上を目指していく中で更なる工夫を講じていきたい。 ②生徒が主体的、意欲的に学ぶことができる環境を作りさらに学習効果を高めていきたい。 ③英語を実践的に活用する行事等を通して生徒の積極的な姿勢が見られた。新たな行事を企画するなど工夫を講じていきたい。 ④帰国子女募集における、本校の認知度は高まっている。次年度も積極的に募集を行いたい。 ⑤教員間の情報共有は学校全体の指導力向上につながる。その中で、教員全体がIBの本質を理解できる体制を構築する。 |

| | |
|-------------------|---|
| 学校関係者評価 | 実施日 令和6年3月26日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | ①ICTの活用について、教員間での情報共有、また研修等を行い資質向上に努めてもらいたい。あわせて基礎学力の向上に向けて生徒のモチベーションを高めるアドバイスを行ってもらいたい。担任を中心に面談を通して、現状把握を行い、学習方法等を含め指導にあたってもらいたい。 ②生徒が様々な体験は学習におけるモチベーション向上につながる機会となり非常に良い。さらに工夫を講じたプログラムを構築してもらいたい。 ③特に英検の取得に向けた取組みは学校全体としての取り組みが成果に繋がっており非常に良い。今後もさらに上位級を目指し、取得に向けた体制を作ってもらいたい。 ④学習計画や個々の学習目標を把握し、より良い方向に結び付けられるよう今後も継続した指導をお願いしたい。 評価：B |
| | ①昌平の生徒であるという誇りを持ち、日々の生活を送ってもらいたい。その中で、生活指導については継続的に行っていくことが大切となる。学校全体で生徒を育てる体制を構築してもらいたい。 ②生徒が企画する行事など、今まで以上に生徒が輝く場をさらに作ってもらいたい。 ③生徒個々のフォロー体制より意識し、積極的な働きかけを通して成長を実感できるようにしてもらいたい。 評価：B |
| | ①部活動等の課外活動を行う中で生徒の成長を実感できることは非常に素晴らしい。活気ある活動に加え生徒が楽しいと感じることができれば必ず成長につながる。次年度も充実した活動が行えるようより良い環境を作ってもらいたい。 ②生徒との面談に加え、家庭状況も把握するために保護者とも情報共有、共通理解を持って指導していくことも大切となる。今後も学校全体として生徒の成長を求めより良い教育環境を作ってもらいたい。 評価：B |
| | ①英語力向上を目指す生徒は英検取得状況から見ても非常に高いことが分かる。更なるレベルアップを図るために授業手法など様々な工夫を教員間で共有し対応してもらいたい。 ②生徒が前向きに、そして、主体的に学ぶ場があることは素晴らしいことだと言える。今後も継続した環境作りをお願いしたい。 ③学習した英語を実践の場で試す機会があり、課題を確認できることは非常に素晴らしいと言える。今後もより良いプログラムを提案してもらいたい。 ④帰国子女との交流は英語力向上のモチベーションを高める状況につながる。今後も継続した活動をお願いしたい。 ⑤教員間の授業展開、手法をはじめ情報共有を行うことで授業の質が高まる状況となる。今後も継続的に行いより良い体制を作ってもらいたい。 評価：B |